
表現する先生展

～つくる・みせる・かんがえる～

第1章 プロジェクト概要

1. プロジェクトについて

「先生が表現をしていくことの意義」についての考えを深めるため、まずは「表現をしていくことの意義」に焦点を絞り、「表現する＝作品展示」に一旦簡略化し、メンバーで作品展を開催した上で、「作品展示を行うことの意義」についてのアンケートを取りました。



↑作品展をお知らせするポスター
『表現する先生展

～つくる・みせる・かんがえる～』

展示期間：2021.12.2(木)～12.12(日)

展示場所：京都教育大学 D 棟一階階段横
「ギャラリーANAGURA」

プロジェクトのメンバーだけでなく、大学全体で作品展示や先生が表現をすることについての考えを深める為、アンケート結果をこの研究報告書の第3章に記載しました。

2. 代表者および構成員

<代表者>

森澤奈央 美術教育専修 M2

<構成員>

久下浩登 美術教育専修 M2

児玉泰 美術教育専修 M2

伊計佳奈子 美術教育専修 M1

李玥 美術教育専修 M1

玉置彩香 美術教育専修 M1

3. 助言教員

丹下裕史先生 (美術科)

第2章 内容と実施経過

8月 構想

9月 作品制作

10月 作品制作

11月 作品制作&展示準備

12月 展示&アンケート



↑搬入の様子

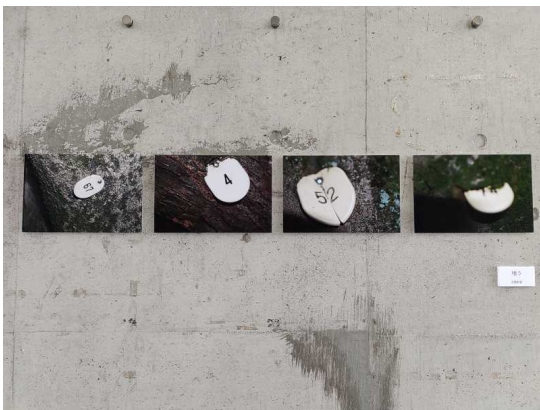
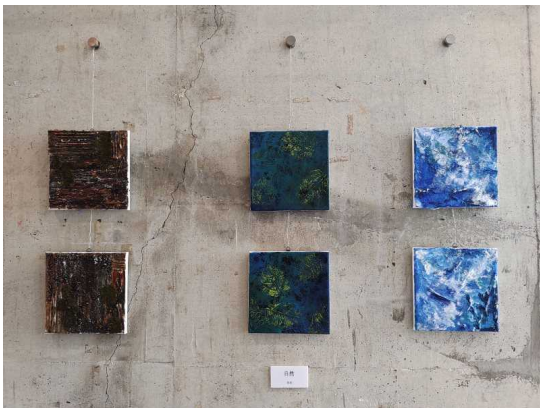
展示作品は以下のリンクからご覧になれます。

<https://www.instagram.com/2021.hyougenn>





↑展示の様子



作品の詳細↓↓↓

<https://www.instagram.com/2021.hyougem>

第3章 結果

2021年京都教育大学 e-project mini

『表現する先生展—つくる・みせる・かんがえる—』

アンケート結果

<アンケート内容>

1. 性別
2. 年齢
3. 現在の職業
4. 作品展示についてどう思うか
(以下から選択・複数回答可)
とても良い/良い/悪い/とても悪い/
大変意義のあることである/無駄である
/特に何も思わない/その他
5. 質問4の理由
6. 『表現する先生展』感想

<アンケート方法>

『表現する先生展』の展示場所(京都教育大学D棟一階ギャラリーANAGURA)入口付近に、アンケート用紙、鉛筆、アンケート回収箱を展示期中(12/2~12/12)だけ常時配置しました。

アンケート用紙とDM、ポスターに付けたQRコードからもオンラインで同様のアンケートを回答できるようにしました。



↑展示をお知らせするDM

<アンケート回答率>

19人/59人(推定来場者数)…32%

※推定来場者数…展示期間中に芳名帳に記載されていた名前の合計数

1. 性別

	人数(人)	割合(%)
男	8	42
女	11	58
その他	0	0
合計	19	100

2. 年齢

	人数(人)	割合(%)
0-9	0	0
10-19	2	11
20-29	9	47
30-39	3	16
40-49	1	5
50-59	3	16
60-69	1	5
70-79	0	0
80以上	0	0
合計	19	100

3. 現在の職業

	人数(人)	割合(%)
美術領域(学部)	5	27
理科領域(学部)	1	5
技術領域(学部)	1	5
M1(院一回生)	3	16
学校教育専修	2	11
教員	2	11
大学教員	1	5
京都教育大学事務職員	1	5
児童指導員	1	5
会社員	1	5
フリーランス	1	5
合計	19	100

4. 作品展示を行うことについてどう考えるか (複数回答可)

	票数	割合 (%)
とても良い	11	46
良い	5	21
悪い	0	0
とても悪い	0	0
大変意義のあることである	7	29
無駄である	0	0
特に何も思わない	0	0
その他	1	4
合計	24	100

その他1票：意義のあることである

5. なぜ質問4のように考えるのか (作品展示を行うことの意義)

制作は発表しないと本当の意味では自分の経験にならず、その経験が教育活動も支えるから。

(男/60-69)

先生が教師としてのみ存在するのではなく、ひとりの「表現者」としても存在することは大事なことだと思うから。また、表現したことを不特定多数の人に公開することは、リスクがあり人によっては勇気のいることだと思う。しかし、そのリスクを引き受けて自己の表現を他者に開く姿勢は、授業を行うことと似ている。生徒は知識の網羅だけでは刺激されない。そこに教師の責任ある表現が必要なのだと思う。そういう意味で、ひとりの人間として表現し続ける人が教師であるのは大事なことだと思うから。

(女/30-39)

見る側の意見を作品に取り入れ、新たな芸術観や技術を開拓できるから。よりメッセージ性のある作品を作るにはどうしたら良いか客

観的に考えるきっかけになるから。やりがいがある作品のモチベーションになるから。

(女/20-29)

アウトプットすることは大事です。表現=アウトプットなのかもしれません。どんどん世に出し、世に問うてみて下さい。

(男/40-49)

どんな作品を作っておられるのかわかりすぎいなあと感じました。

(女/10-19)

展示してみて、他の人の目にふれたり、他の人から意見をもらえることで、また自身の考え方もかわってくると思います。

(女/20-29)

表現があると心が安らぐ等、見る側にとって利益があるから。

(女/20-29)

目標に向かった作品作り。アウトプットを作品という形で表現できる。

(男/20-29)

展示をすることで人の目に触れるのは良いことだと思う。また、見る人も作品をどう感じるかどうか考えるかの機会を得られるから。

(男/30-39)

作品を通して考えられること、感じるがあるから。

(女/20-29)

御自身が制作されたものを発信されることに意義があると考えます。多くの方達と作品を共有できる時間が素晴らしいと思います。

(女/50-59)

新しい表現に私が出会うことが出来た。学校に居ながら美術（芸術）に触れられるのは嬉しい。

（男/20-29）

各々のやっていることが客観化されるから。

（男/50-59）

見ていて楽しいからです。

（女/10-19）

6. 『表現する先生展』の感想

作品を拝見することで、自らの表現を省みることができました。

（男/60-69）

それぞれの作品の形があり、興味深く拝見しました。京都教育大学の「いろんな方向性を持った人たちが集まる」「自然の豊かな」「学舎」感が滲み出ていました。ここでしかできない表現だなと思いました。また見たいです。作品制作、展示の準備などお疲れ様でした。

（女/30-39）

第一印象は「とても考えて作られた作品」でした。どう伝わるか、色彩の効果など多角的に考えられていると思いました。ずっと心に入ってくる表現で、メディアとの相性と必要性も伝わってきて存在感がありました。自分の作品の参考にしたいです。

その他：もっと宣伝してほしい

（女/20-29）

ひっそりとした空間の中で独り、作品に入り込むことができた。それぞれの方、全く違う世界を見てとても楽しかった。

（男/20-29）

月1開催できる。

（男/40-49）

学生さんは自然について自由に表現できた作品です。とても素朴感を感じた。

（女/50-59）

どの作品もステキでした！

（女/10-19）

学生がアナグラを使っているのはよく見ましたが、院生だけが使っているのははじめて見たかもしれません。おもしろかったです！

（女/20-29）

全体的に静かな雰囲気が私に合いました。シルバーのベースに印刷された写真に驚きました。メタリックなつやにどきりとします。

（女/20-29）

とっても良かったです！

（女/10-19）

作品群、空間も作者も共に干渉しない、ある種の孤、個を感じました。各々に見えているものを集約、配置バランス等々見やすく感じました。

表現する“人”ではなく、“先生”であること、そこにきっと意義があるのだろうと考えると共にきっとそこも問い直しを必要とされているのだろうと切に感じました。ありがとうございました。

（女/20-29）

空間がまずすてきです。普段の場所にそっとあると楽しいです。

（女/20-29）

作品を通して、新たな発見や、自分の中で考えることが増えました。非常に良い機会でした。

（男/30-39）

ずっと見に行きたかったので、見る事が出来て嬉しかったです！机の作品もとても斬新でおもしろかったです。“何も上手くいかない”という思いが伝わってきました。

(女/20-29)

とても素敵なネーミングですね。つかの間の静かで心地よい時間を過ごせました。どの作品も作者の方が丁寧に思いを込めて作られたことが感じられました。ありがとうございます。

(女/50-59)

2～3回続けてみると面白いと思います。

(男/50-59)

“喰う”はとてもおもしろい着眼点の作品だなと思いました。

(男/30-39)

第4章 まとめ、今後の展望

この活動の目的である「先生が表現をしていくことの意義について考えを深める」ことにおいては、アンケートを行い、美術科以外の方からも意見を頂いたことで、メンバー各々が思考の視点を増やすことが出来ました。

この度のアンケートは、答えやすさと幅広い意見を集めることを重視し、簡略化して「作品展示を行うことの意義」について質問しましたが、ご意見の中には、先生がなぜ表現をするのかについて率直に述べられていたものもあり大変参考になりました。その他のご意見につきましても、普段学生が作品を見るときに何を考えているのかが分かる貴重なご意見であったと考えます。

改善点としては、展示の宣伝方法とアンケートデータの収集方法です。この度の作品展『表現する先生展～つくる・みせる・かんが

える～』にご来場頂いたのは、推定で59人でした。これは、普段のギャラリーANAGURAでの推定来場者数約20～30人に比べて多いと言えますが、今後また作品展をするにあたり、もっと多くの方に見に来て頂くための宣伝方法を考える必要があると思いました。アンケートにおきましては、オンラインで同じものを答えられるようにしていたにも関わらず、展示会場前に設置していた紙で答えて頂いた方が9割で、想定していた回答人数を得ることが叶いませんでした。また、作品展示に消極的なご意見もお聞きしたかったので、もっと幅広い方々のご意見を収集できるアンケート方法を模索したいです。

この研究報告書が、今後作品展示をしようとする美術科の学生や表現について考えようとする人々の参考資料になったら良いと思っております。